

Ⅱ. 分科会の実施報告



公民館の先生方

2023年度 メイクフレンズ学生自主企画分科会

1. 目的 「メイクフレンズの活動をレベルアップするための取り組みを考える」

理由 今年度は新型コロナウイルス感染症による制限がほとんどない状態で子どもたちと活動を行うことができ、どの学生も従来の活動を経験することができた。そのため、次は子どもたちとの活動をより充実させたいと考え、この文言を設定した。それに伴い、各々が感じている活動の中の課題や困りごとを、議題に沿って共有、議論することで、課題の克服や困りごとの解決に繋がる策を講じることができれば、メイフレの活動をより充実させることに繋がるのではないかと考える。

目標 「互いの意見を尊重し、自分の役割を意識して話し合う」

理由 班や学年、役職の異なる学生同士が意見を交わし、それぞれが尊重し合うことは、多くの学生に合ったかたちで活動のレベルアップを図ることに繋がるのではないかと考えた。

2. 分科会で取り扱う議題について

第一部では、「学生のメイクフレンズの活動の優先度を上げるにはどうしたらよいか。」と設定した。今年度は新型コロナウイルスによる制限はほとんどなくなり、メイフレの活動の幅は広がっているが、メイフレに積極的に参加する学生とそうでない学生とで二極化している傾向にある。それには、他のサークルや授業との両立も関係していると思われるが、より学生が熱意をもってメイフレの活動に参加できるようにするにはどうしたらよいのか学生同士で意見を出し合い、来年度の活動の参考にしたいと考え、この議題を設定した。

第二部では、「活動を子どもたちにとって有意義な時間にするためにはどのような企画、支援が考えられるか。」と設定した。今回の分科会の目的は活動のレベルアップであるが、レベルアップとは、活動が子どもたちにとってより充実した時間になるように工夫することを指すのではないかと考えた。分科会では班や学年、役職の異なる学生同士が意見を交わす良い機会であるため、違う形態の班からの意見も参考にすることができる。よって、従来の企画、支援だけでなく、新しい視点の活動も考えることができるのではないかと考え、この議題を設定した。

実 施 計 画

1. 時間 13:05～15:00

- 13:05～ 開会式（5分）
- 13:10～ 第一部意見交換会（40分）
- 13:50～ 休憩（15分）
- 14:05～ 第二部意見交換会（40分）
- 14:45～ 事後アンケート（10分）
- 14:55～ 閉会式（5分）

2. 議題

第一部：学生のメイクフレンズの活動の優先度を上げるにはどうしたらよいか。

第二部：活動を子どもたちにとって有意義な時間にするためにはどのような企画、支援が考えられるか。

1 班… 1 年：佐藤 涼花

2 年：築山 明宗 湯浅まつり

3 年：高田 華奈

4 年：沖永 千奈

2 班… 1 年：竹島 智輝 小倉 美優

2 年：本村 優奈

3 年：河野 栞里

4 年：荻原 尚志

3 班… 1 年：西元 万葉

2 年：緒方 美優

3 年：伊津野太陽

4 年：吉永 乃方

4 班… 1 年：川畑 日向 高木 優

2 年：嶋 美織

3 年：金丸 真紘

4 年：内田 千咲

5 班… 1 年： 工藤 大輝 堀 日向子
2 年： 窪田 朱璃
3 年： 宮本 真希 伊藤 理恵
4 年：

6 班… 1 年： 松本 真采
2 年： 西尾 一輝 甲斐 董
3 年： 小倉 花菜 岩崎祐希乃
4 年：

第一部 1班

テーマ「学生のメイクフレンズの優先順位を上げるためにはどうすればよいか。」

メンバー（オム、すー、あっきー、つぼみちゃん、きら）

- ・ギャップを埋める。事前に定例会や活動内容についての説明を行う。
- ・お楽しみ会を強化する。
- ・副部長（副船長）を増やす。
- ・メイフレ筆記試験。
- ・班の仲を深める。仲の良さが大切である。
- ・定例会は必ず参加するようにする。参加を強制も。
- ・メイフレに対する熱意を上げる。
- ・活動や話し合いで何をやったかが分かるように共有の工夫をする。
- ・係を増やす。責任感を持つ。

第一部 2班

テーマ「学生のメイクフレンズの優先順位を上げるためにはどうすればよいか。」

メンバー（ごとう、クー、ひぐれ、ほるむ）

- ・ 昼の話し合いは人が集まらないけど本番は人が集まる。
- ・ 課題、テストの直前の休みは仕方がない面もある。
- ・ 集まりがある曜日、やることを事前に決めたら参加率が上がった。
- ・ 班長、副班長以外にも役割を与えてみんなに責任感を持ってもらう。

→しかしその役割分担をするのが難しい。

（役割例：話し合いの司会書記、投票箱の設置）

- ・ 班員同士の仲が良いと参加率が上がる。
- ・ ごちゃ混ぜご飯を学年別にするのも、より仲を深めるのに効果的になるのではないかな。

第一部 3班

テーマ「学生のメイクフレンズの優先順位を上げるためにはどうすればよいか。」

メンバー（ふぉんぬー、みほ、りこざわ、きゅん）

- ・ 入部してもらうことだけを考えると、辞める人も多そう。
→ 活動内容を説明会で伝えることが必要。
活動内容を知っていれば本当に入れる人、入りたい人が増えるのではないか。
- ・ 全体でのレクなどがあまりない。あっても人が集まらない。
- ・ 早めに仲良くなる機会を持てると良い。
- ・ 子どもと関わる機会が多いプランナーの方がモチベーションを保てやすい。
- ・ 班三役以外の人も仕事を持つこと。仕事を割り振る。1年生にも仕事を任せる。
- ・ 班で仲良くないと続けられない。
- ・ メイフレ入ってすぐのレクを取り入れるのはどうか。
- ・ 話し合いの内容などをノートで共有しても読まない人がいるので難しい。
- ・ 1年生が入るときに、子ども役を1年生にやってもらって模擬活動を行うと雰囲気を掴めそう。
- ・ ごはんは仲良くなる場。ごはんのかたちも変えたい。
(今の中央班の2週間に1回制とても良い。)

第一部 4 班

テーマ「学生のメイクフレンズの優先順位を上げるためにはどうすればよいか。」

メンバー（まむ、ドリー、しまたん、バーボン）

○現状

- ・ 兼部や兼サークルをしている人が特に参加できていない。
 - ・ 入る前のイメージと違うところに戸惑う人、辞めてしまう人がいた。
- メイフレ特有の専門用語（TT や班付等）が沢山あった。
- 思っていたより細かな決め事の流れが話し合いの中に多かった。
- ・ 出欠投票による欠席者の可視化によって、自分も行かなくてもよいという思いが生まれてしまう。
 - ・ 仕事が少なくやりがいを感じられない人もいる。
- 昼休みの話し合いで、行った意味がないと思うことがあった。

○解決策

- ・ 戻ってきやすいようにするために、投票は全体で取らなくてもよい。
- ・ かなり前もって予定（TT 完成日等）を決めて、それを班員に割り振る。
- ・ 班長に仕事が集中しないよう、人数が多いなら分配する。
- ・ 分配のために班の中で5人×3グループのようにグループ分けする。
- ・ 新入生に計画や定例会のことを伝える。

第一部 5 班

テーマ「学生のメイクフレンズの優先順位を上げるためにはどうすればよいか。」

メンバー（ちゃちゃ、りぐら、リキュー、かなみょん）

現状

- ・他のサークルと兼部していて来られないこともある。
- ・学年が上がって忙しくなる。
- ・なかなか活動に来られない人も迎え入れてくれるような空気感が大事。
- ・方針を考えると、次年度についての話し合い等は参加するなど、普段の活動にもメリハリをつける。
- ・定例会を LINE 電話や ZOOM で行う。
- ・班 3 役以外にも仕事を割り当てる。
- ・班長と副班長の信頼関係を築く(仕事を頼めるかどうか)
- ・班内の同学年との交流を深めるためのイベントを設ける。

第一部 6班

テーマ「学生のメイクフレンズの優先順位を上げるためにはどうすればよいか。」

メンバー（じぇり、ミンミン、Rz、マーム）

- ・ひとりひとりに責任を持たせる。自分はいなくてもいいかなって思うと活動に行かなくなるのではないか。
- ・メイフレについてもっと知ってもらえる機会があると良い。
特に一年生は行事の内容などがつかめないなので足が遠のく。もっと詳しく教えてあげればハードルが下がるのでは。
- ・外部依頼を班ごとの当番制にする(外部依頼に参加する人が固定化されている)
- ・友達がいるから参加する、という人もいるので、より多くの人と関わってもらいたいからと言って仲いい友達と無理やり引き離すということはしない方が良い場合もあるのではないか。
- ・学年同士のつながり、上下のつながり
- ・人間関係が大事であるため、班の中を深めるようなイベントをする。

第二部 1 班

テーマ「活動を子どもたちにとって有意義な時間にするためにはどのような企画、支援が考えられるか。」

メンバー（オム、すー、あっきー、つぼみちゃん、きら）

- ・ ナイト企画、キャンプ、お泊り企画、巨大オセロ、買い物、理科の実験、福祉体験
- ・ 地域の人も巻き込むような活動
- ・ 単発やホールの活動のアンケートやフィードバックを行う。
 - ・ ホールの活動の時間を長くする。
 - ・ 野外の活用
 - ・ 他学校の子と友達になれると良い→待ち時間のおしゃべりも大切

第二部 2班

テーマ「活動を子どもたちにとって有意義な時間にするためにはどのような企画、支援が考えられるか。」

メンバー（ごとう、クー、ひぐれ、ほるむ）

- ・活動が有意義であるという意味は子どもにとって学びがあるという意味と子どもが楽しんでいるという意味があるのではないか。
- ・有意義であるという観点から考えると、ホールの活動ではコミュニケーション力を育てるという観点から同じ班の子ども同士仲良くなるために支援を行った。
→作戦を話し合う時間や、作品を褒め合う時間などコミュニケーションを取れる機会を増やした。
- ・楽しむという意味では、企画自体が大事になる。
- ・子どもが楽しむためには事前準備が大事。
ルールや備品をしっかりと用意してプレで様々な想定をするのが大事。
- ・ただ楽しいだけではなく、〇〇があったから楽しい、〇〇ができて楽しいなど
というような成功体験などの体験を持ち帰ってほしい。

第二部 3 班

テーマ「活動を子どもたちにとって有意義な時間にするためにはどのような企画、支援が考えられるか。」

メンバー（ふおんぬー、みほ、りこざわ、きゅん）

企画…調理、レク、工作

公民館外での活動(買い物、町探検、スタンプラリー、地域を知ろう)

→活動範囲を広げていく。

- ・子どもたちとのつながり

レク

→楽しむだけでなく、自己紹介、会話が生まれそうなものをうまくゲームに混ぜる。

1 回目のアイスブレイクからだんだんとテンションを上げていく。

班で協力系のレクを取り入れるのも良い。

- ・お話の時間を大切にする。
- ・活動の仕方(机 or 床、子どもたちの距離感)
- ・他班同士でアドバイスやアイデアを交換するのが良い。

うまくいったことを共有する。

→その際に名称を軽くする。(例：お悩み相談会、これよかったですよ会)

第二部 4 班

テーマ「活動を子どもたちにとって有意義な時間にするためにはどのような企画、支援が考えられるか。」

メンバー（まむ、ドリー、しまたん、バーボン）

○子どもたちにとって有意義な時間とは、楽しい、得るものがある、行ってよかったと思える時間である。

○子ども同士の会話を促す支援について

- ・子どもと学生の一対一で仲良くなる。
→緊張しなくなり自然とその輪を広げていく。
- ・子どもと学生でまずは目線を合わせて、第三者的ではない立場を意識する。
- ・班付が活動をうまく進めようと思いつぎずに関わるようにする。
- ・体を動かす活動を行う。
・この空間は大丈夫であるという安心感を与えられるようなアイスブレイクの工夫が必要である。

○やりがいと達成感を得るための結果と過程について

- ・自分が作りたいもののイメージを作って、その後に作る。
→達成感につながる。※レクレーションだと難しい。
- ・勝敗にこだわってしまうことは悪いことではない。
→・勝つための協力でもいいから、押しつけにならないようにする。
・負けた後の支援によって、負けても良い思い出になる。

○競技に出たかった子が出られなかったときのフォローについて

- ・全体を通して、競技の数を言うようにする。
- ・やりたい係に名前を貼って、子どもたちで決め方も決めるようにする。
- ・選択や判断は子どもたちの意思を聞いて、子どもたちが納得できるようにする。

第二部 5班

テーマ「活動を子どもたちにとって有意義な時間にするためにはどのような企画、支援が考えられるか。」

メンバー（ちゃちゃ、りぐら、リキュー、かなみょん）

有意義とは

- ・ プランナー…年間を通しての成長がみられること。
 - ・ ホール、単発…楽しんでもくれること。
- 共通して子どもたちの楽しそうな姿が見られたら○

企画・支援

- ・ 自分から話すのが苦手な子のつなぎ役になる
 - ・ みんなで盛り上がるレク（みんなが知っているゲーム、自己紹介系のレクなど）
 - ・ 外向的、内向的に関係なく楽しめるもの。
- 内向的でも参加したい気持ちがある子→出番を与える。
- ・ 目標を設定し、それを達成できるように支援する。
- 『楽しむ』とは、ただの楽しさだけでなく、目標を達成することによる楽しみもある。

第二部 6班

テーマ「活動を子どもたちにとって有意義な時間にするためにはどのような企画、支援が考えられるか。」

メンバー（じぇり、ミンミン、Rz、マーム）

- ・子どもたちの気が散らないように、なるべく学生も子どもたちと同じ活動をする。
- ・学生で、盛り上がったレクなど具体的な活動内容について情報共有ができる場を設ける。
- ・目標、見通しがあると子どもたちの活動に対する意欲があがるのではないか。（活動が終わった後になにか形に残るものを残すなど。また、逆に工作をして終わりではなく、それを使ってレクをするなど。）
- ・活動を楽しんでもらえるためには、導入でのつかみが大切。アイスブレイクの充実など。
- ・子どもたちが中心であるが、学生が入っていった方が盛り上がることもある。
誰かが楽しんでいると楽しい雰囲気を作ることができる。
- ・ホール…楽しんでもらう
プランナー…プランナーに学生を動かしてもらおう。そうすれば子どもたちも主体的に活動ができるし、学生も手持ち無沙汰にならない。
- ・学生が姿でみせる。

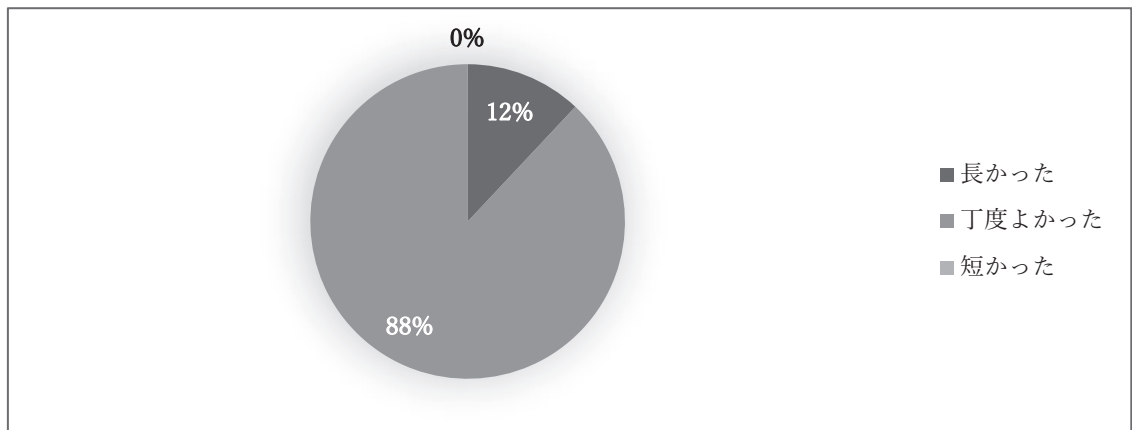
分科会の事後アンケート結果

本年度の分科会事後アンケートは Google フォームを用いて行った。結果を以下にまとめる。各人が分科会で得たものを共有することで、来年度以降の活動、また今後の分科会開催に生かしていきたい。

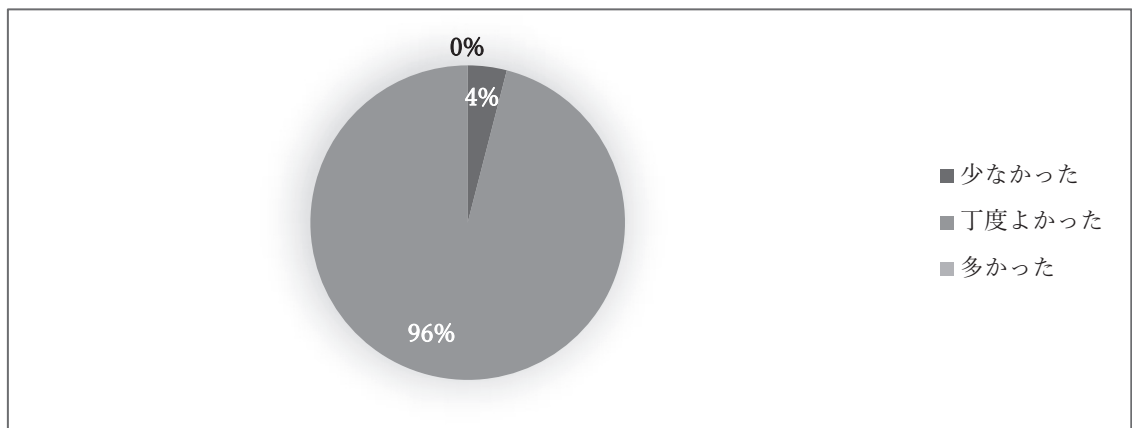
- 回答人数 25名（1年：6人、2年：8人、3年：7人、4年：4人）
- 選択回答は3段階で評価

＜分科会全体を通して＞

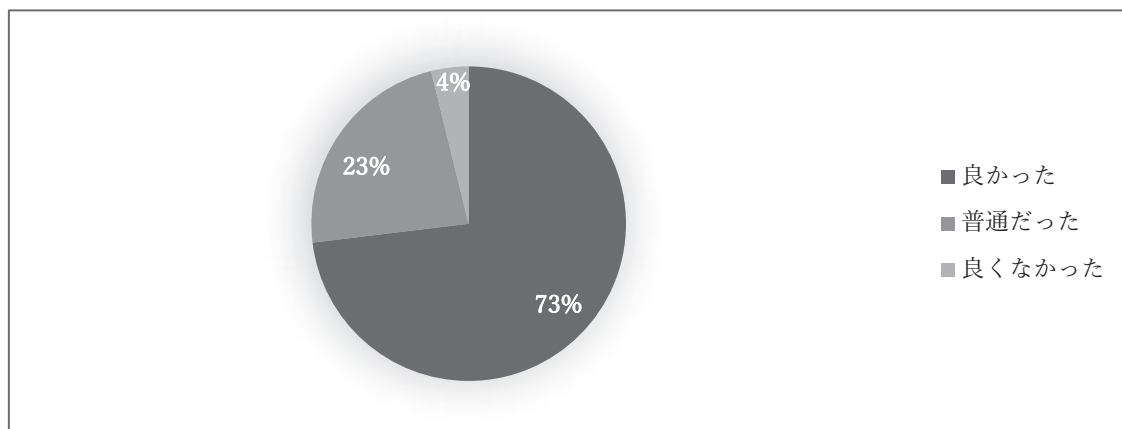
話し合いの時間の長さは適切であったか



班の人数は適切であったか



2部とも同じメンバーでの議論はどうだったか



「良かった」と感じた理由

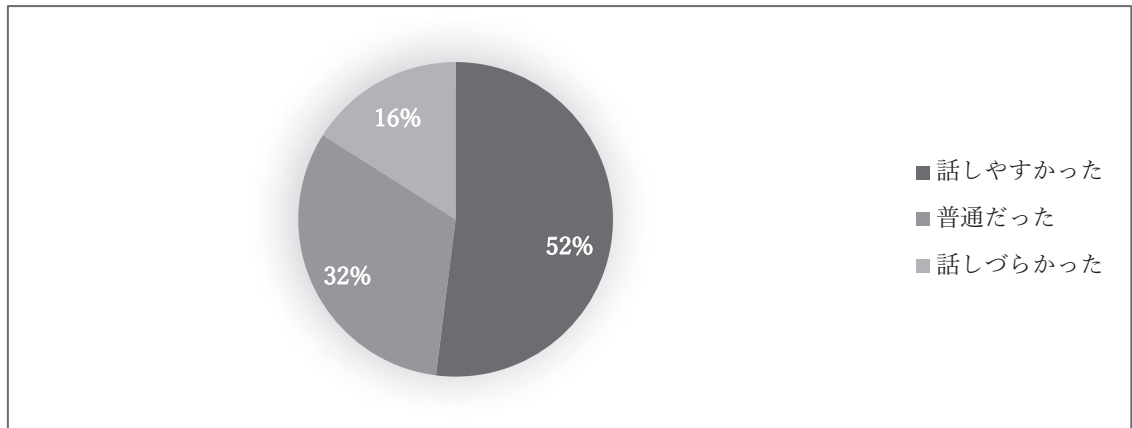
- 普段は話さないようなメンバーだったため、長い時間色々話すことができ、お互いを知ることができたから。
- 第一部は緊張したが、第二部は同じメンバーということもあり、緊張せずに楽しく話せたから。
- 第一部で打ち解けることができたので、第二部の難しい議題でも、みんなが意見を出しやすい雰囲気だった。
- メンバーが同じだったので、第一部で話した内容を第二部に繋げることができた。
- 意見を出しやすい雰囲気が最も大切だと考えるので、スムーズに話し合いやすい2部とも同じメンバーという進め方がとても良かった。

「良くなかった」と感じた理由

- 第一部だけでも、他班の活動の様子や工夫、班のメンバーの意見を知ることができ、かなりたくさん話せたと感じているので、メンバーを変えても良かったと思う。
- もっと色々な意見を聞きたかったので、議題ごとに班のメンバーを変えた方が良かったと思った。

《第一部について》

議題は話しやすかったか

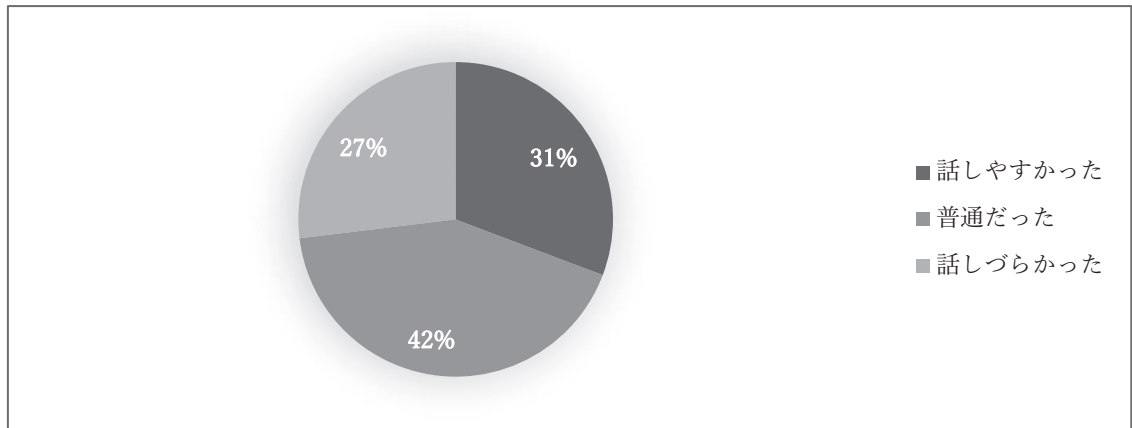


印象に残ったエピソード

- ・新入生にメイフレのことを知ってもらう機会がもっとあると良いのでは、という意見。
- ・班のメンバーみんなに仕事を割り振ることで、仮に休みがちになっても連絡が途絶えることはなくなるのではないかと意見。
- ・そもそも優先度を上げる必要はないのではないかと意見が出たこと。
- ・他班の参加状況や活動内容を知り、自分の班と全く違うことに驚いた。
- ・他班で上手くいった話し合いのやり方・方法を教えてもらったこと。
- ・活動内容や活動頻度、話し合いのやり方などのメイフレに入る前と後のギャップをなくすことが必要だという意見が、1年生から聞いたこと。
- ・結局人間関係が重要だという話になったときに、行き詰った。
- ・一人ひとりに役割を与えることなどによって、責任感を持たせ、みんなで活動を作り上げていくという雰囲気が大切だと感じた。
- ・定例会の出欠確認の投票によって、自分が欠席していることが可視化されると、次の集まりに行きにくくなってしまうという意見が出たこと。
- ・昼休みの話し合いの曜日を固定化することで、話し合いの参加率が上がった班があることを知ったこと。
- ・メイフレ以外でサークルや部活動などを頑張っている人も、一緒に楽しく活動できるシステムの構築をしたいという意見が、とても良いと思った。

《第二部について》

議題は話しやすかったか



印象に残ったエピソード

- 学生も楽しむことで、子どもたちに良い影響があるという意見。
- 子どもにとって有意義な時間とは何かを考えるのが、難しかった。
- 他の班の活動での取り組みや雰囲気を知れたこと。
- プランナーはプランナーの子ども、ホール・単発は活動に参加する子ども（お客さん）と楽しませようとしている対象が異なることに気づいたこと。
- 子ども同士が仲良くなるために各班行った工夫やレクを知れたことが良かった。
- 活動が楽しいだけでなく、経験など何か得られるものがある活動になると良いという話ができたと。
- ホールや単発では、工作、レク、調理という公民館の中の活動に捕らわれず、公民館の外に出るような活動に挑戦してみたいという話をしたこと。
- プランナーの子どもにとって有意義な時間や企画・支援について考えるのが、難しかった。
- 振り返り会ほど堅くならず、他班の人と意見交換ができたこと。今後もこのような機会があると、積極的な意見交換がしやすくなり、良い企画や支援を思いつきやすくなると思う。
- ホール班の活動は2時間と限られているため、子どもの成長を促すのは難しく、楽しく活動することが優先されるため、議論が難しかった。

《学年別の質問》

○1～3年生

今回の話し合いを踏まえて、今後のメイフレ活動にどう取り組んでいきたいか

- ・メイフレを一度離れてしまっても戻ってきたくなる居場所のような暖かいサークルになれば良いなと思います。
- ・他の班の支援を、自分の班でもやってみたいと思いました。
- ・これまで以上に、全員がメイフレの活動を楽しめたら良いと思う。
- ・特に、班の三役などは他の人に比べて仕事量も多いと思うので、自分の力で手伝えることがあれば全力でサポートしていきたいと思った。
- ・それぞれに忙しさなどが違う中でも、みんなで協力し合って活動していきたい。
- ・自分自身は適度に関わりたいが、より多くの人が参加しやすい雰囲気を整えることが大切であると思った。
- ・学年が上がるため、より積極的にメイフレに参加したいと思った。
- ・今後も子どもたちがより楽しんだり、成長できたりする活動内容を班員のみんなで議論しながら、有意義な活動にしていきたいです。
- ・他の班から取り入れることのできる案をたくさん聞くことができたので、それを自分の班で活かしながら、学生にとっても子どもたちにとってもよりよい活動にしていきたいと思った。
- ・今回の分科会で先輩方や後輩のメイフレに対する熱量を感じられました。3年生になってからは、2年生での経験を踏まえて、後輩の助けになれるように沢山活動に参加していきたいと思います！
- ・新入生への活動内容の説明を詳しくしたいと思いました。また、新しい企画にも挑戦してみたいです。
- ・学生も子どもたちも楽しめる活動をしたい。
- ・他班の活動内容について知れたので、他班のアイデアなどを聞いて自分の班の活動に役立てたいと思います。
- ・もっともっと柔軟な発想で考えていきたいと思いました。また、他班の人と関わる機会はとても大切なものだと感じたので、今回学んだ良さを振り返り会のやり方などに反映させられたら、もっとメイクフレンズが楽しくなると思うし、振り返り会の意味も大きくなっていくと思いました。

《学年別の質問》

○4年生

後輩に伝えたいメッセージ

- ・メイフレをされていて大変なこともたくさんあると思うけど、その何倍も役に立つことが絶対あるから無理しない程度に楽しんで頑張ってください
- ・もっと先輩使っていいよ～仕事やるよ～
- ・子どものことを第一に考えて、「ほんとに楽しいかな?」「もっとできるんじゃないかな?」という視点を常に持っていてほしいなと思います。メイフレ楽しいから!まだ活動できるみんなが羨ましい!
- ・卒論はめんどくさくてもしっかり書こうね!! 適当にやると死ぬほど発表会で詰められます。1年生は来年2年生になるけれど、2年生の時間が1番楽しいです。是非時間を有意義に使おう!

2、3年生はこれからとっても忙しくなるだろうけれど、頑張って！！特に2年生は班長になる子もいると思うけど、班長になった子はメイフレ超忙しいけど、絶対やめないで！副班長にシンポジウムの作業が回ってきます。大変です。みんながこれから楽しく過ごしていけるように祈っています。。

《事後アンケートの内容への要望や改善したほうが良い点》

- ・印象に残った場面という聞き方が難しかったから、印象に残ったポイントか印象に残った点とかだと書きやすいかもしれない。
- ・第一部、第二部の議題を改めて書いておくと、質問に答えたり、話したりしやすいと思った。

《分科会の内容への要望や改善したほうが良い点》

- ・どのような理由で議題を設定したのか、どのような点に問題意識を感じているのか、あらかじめ共有していたら、より話しやすくなるのではないかと思います。
- ・内容のまとめ方が分かりづらい様子だった。司会者みたいにマニュアルや、見本があるとやりやすいと思う。
- ・内容が難しそうだから来ないという人もいると思うので、どんなことをするのか詳しく説明しておくとう参加者が増えるのかなと思いました。
- ・もっと分科会のような話し合いの機会を増やしても良いのではないかと思います。